おはようさん

第５号

良くも悪くも大人が築いた文化の中で育つ子どもたちに、私たち大人の生き方が今問われています。
京都の躾を語る女性の会は、躾といういささか古びた言葉を持ち出し、伝統と文化の町―京都において、今も息づく「躾」や「訓」にともに学び、ともに語ることから、真の子育て文化を提唱します。

会場風景：ゲストスピーカーの熱い対談に参加者の真剣な眼差しが注がれる。

次第

対談
『現場が語る教育問題』
ゲストスピーカー
京都市立大宅小学校教諭　前田　正　氏
社会福祉法人岩屋福祉会
岩屋保育園々長　室田一樹　氏

『天皇皇后両陛下ご成婚四十周年記念写真展』**拝観**

ゲストスピーカー：
京都市立大宅小学校教諭
前田　正　氏

ゲストスピーカー：
社会福祉法人岩屋福祉会
岩屋保育園園長　室田一樹氏

去る十月八日（日）真新しい京都府神社会館において「現場が語る教育問題」と題して対談が行われました。

ゲストスピーカーである市立小学校教諭の前田正氏と当会の事務局長でもあり市内私立保育園園長の室田一樹氏との対談は、一昔前とは様相の変わった子供達の生活や、現場を預かる教師の変化について具体的な例を取りあげ話し合われました。会員からの質問では、先生方のモラルの低下などの問題点があげられ、今後の学校教育のありかた等について討議されました。

あいにく近隣の小中学校では運動会が開かれており出席者はやや少なめでしたが、参加者はそれぞれの立場から教育問題を考える良い機会となりました。

京都の躾を語る女性の会
〒六一六－〇〇二二　京都市西京区嵐山朝月町六八－八
京都府神社庁内
TEL〇七五－八六三－六六七七
FAX〇七五－八六三－六六六五
http://www.net-k.co.jp/situke
E-mail:situke@net-k.co.jp

京職人の伝統と技

「竹文化の継承と創作に新しい息吹を」

＝竹材職・中川竹材店さん＝

創業元禄元年（一六八八年）。実に三百年以上の伝統を誇るお店の暖簾をくぐり、十代目中川正治社長の実弟でいらっしゃいます中川利春さん（五二歳）をお訪ねし、竹のことや躾についてお話をうかがいました。

■一流の職人になる第一条件は、いかに合理的に無駄なく仕事ができるかです

例えばお施主さんから竹垣などの注文が入ると、中川さんは即座に現場をデジタルカメラ撮影し、パソコンに取り込みます。そしてＤＴＰソフトを駆使して商品イメージを作り上げ、独自のアイデアを提供し、施工に取りかかるというのが常とか。「**便利な道具は多いに活用すべし**」という持論にも、仕事の手際の良さにもただただ脱帽するばかりです。

さて、竹材店の仕事は、大きく建築と造園の二分野に分かれるそうです。建築の分野では在来工法の建物に限定されますが、特に数寄屋造りや茶室建築などに竹は必要不可欠なもの。外壁の下地や外壁材、内装材、天井材、照明などが主な用途となります。また、造園分野では垣根。八幡にある松花堂さんの垣根は全部中川さんのオリジナル・デザインです。（皆さん機会があれば、是非一度ご覧ください）

「**竹の良さは、先ず軽いことと加工しやすいこと。**また、独特の色つやなどにあると思いますが、タケノコからわずか一年で資材として使えることも大きな特長でしょう。世界の有数な建築を見ても、その国の気候風土に合った材料が使われています。日本の在来工法における木材や土壁、瓦などと同様、竹は自然素材を生かした建築に見事に調和してくれます。」そう言われてみれば、確かに老舗といわれる料亭や、古い佇まいのお宅を拝見すると、床几や家具などにまで面白い竹細工が施されていたりして、思わず目をとめてしまいます。それが実に自然で、どこか心が和むようでほっとしたりして。

中川竹材店　中川利春氏
昭和二三年七月五日生まれ。
平成三年より、店内にＴ＆Ｊデザインを開設。より現代性を求めた竹製品を提案、製作し続けている。
有資格　各種竹工芸一級技能

■ごく普通の生活を親子で共有する真の豊かさを思い出してほしい

先代についてお聞きすると、「私の父は特別厳しいという人ではありませんでした。ただ、祖父母に伯父夫婦、両親と兄弟四人の大家族。その上に職住がいっしょでしたから、いろいろなことが自然に身についたんだと思います。敷居を踏んだら叱られたり、挨拶はきちんとしなさいと言われたり。まあ、どれもごく当たり前のことですよね。ただ、けじめをつけることだけはうるさかったと思います。今でも私が自分の家族にしていることでもありますが、新年の挨拶なんかがそうです。元旦の朝、家族全員にお膳が出され、そこにはお年玉も置かれています。ひとりひとりが挨拶をすませ、お雑煮を祝い、それからお年玉に手を着けるという順番。私も子ども心にその小さな袋が気になって、「早く見たいなぁ」なんてそわそわしていたのを思い出します。」と、懐かしそうにお話し下さいました。

今の教育については、「子供達はあたりまえの生活をあまりにも教えられてないと思います。親は高学歴、高収入を望むあまり、“勉強さえしてくれたら”になっているし。普段の生活にしても、お金を出して買うことが多すぎますね。例えば手作りのおばんざいを家の器に盛る。そのついでにその器の由来も聞かせる。そんなことから家族の接点ができるんやないでしょうか。普通の生活を共にすることの大切さ、豊かさが忘れられていると思います。」と熱く語って下さいました。

■現場第一主義を貫徹した職人教育

「私は常に現場第一主義です。お施主さんのお庭やお座敷、そこが仕事場になるわけですから庭の入り方から履き物の脱ぎ方。座敷の通り方やゴミの始末の仕方、言葉遣いなど、職人として当たり前のことを当たり前にできるようきちんと教えます。

また、無駄を省くために工夫することこそ職人の信条ということもたたき込みます。」これが中川さんの教育方針となる。

そんな親方のもとで育ったお弟子さんが、この度京都迎賓館活用見本竹垣コンペで最優秀賞を受賞されました。見事受賞に輝いたのは笹尾さんという二十三歳の女性です。出展されたのは「袖垣迎垣『風』」という作品。「**竹の業界は設計士やデザイナーがいないので、私たちが全部手がけます。それだけに伝統を踏まえた上で新しいデザインを生み出さなければならない苦労、そして面白さがあるのです。**」竹の世界に生き、技と心を伝え続ける職人の世界。新しい息吹をしっかりと感じとれた瞬間こそ、中川さんの至福の時なのでありましょう。

中川竹材店さんには、床几や駒寄せ電気スタンドなど、竹の風合いを生かした現代的なデザインの作品がところ狭しと置かれております。工場では職人さんたちが青だけを桶につけ、磨いておられました。その桶の縁が永い年月を経て、竹の形にくぼれていたのがとても印象的でした。

竹又　中川竹材店
京都市中京区御幸町通二条上る
〇七五・二三一・三九六八
元禄元年（一六八八）、竹屋又四郎が創業。七代目より中川姓を名乗る。竹材の販売をはじめ竹をトータルにプロデュースする。

連載・時事を問うコラム⑤

「鈴木先生の思い出」

岩屋神社禰宜　室田　一樹

鈴木先生にお借りしたい本があったり、お聞きしたいことができると、私はよく八坂（神社）さんに電話をかけました。「夜に室田が来るから」と、先生は奥様に連絡をお取り下さいます。呼鈴を押すと大きな門が開き、お優しい笑顔の百合子奥様がお出迎え下さいました。玄関までのアプローチには必ず打ち水がされ、古いガラス戸の中央が開け放たれています。そして白いカバーがかったアンティックな椅子がしつらえられた応接間へ。しばらくして先生は「やぁ」と入って来られるのが常でした。また、帰りには私の車が角を曲がって見えなくなるまで、お二人でお見送り下さいました。今思い返してみても、二十歳そこらの私にはあまりに過分なおもてなしでありました。

いつも先生の机上には葉書が積まれ、「電話よりも簡単だし、気を使わないからね。」とおっしゃって、事あるごとにすぐ筆をお取りになりました。きっと幾人もの方々が、宝物のように先生の書簡を大切にされていることでしょう。

先生はまた、真夏にはよくステテコ姿で社務所を歩かれたものです。その軽妙洒脱なお話ぶりと、ご自分には厳しかったお人柄に、誰もが一様に魅せられました。若かりし頃、未熟な私は、「先生はお休みをお取りにならないのですか」とお尋ねしたことがありました。先生はその時、ただひとこと「神主ですから」とお答え下さったのを思い出します。

先生の博学は衆目の一致するところですが、それが神明奉仕のためのみのご努力であったことを、あらためて今かみしめる次第です。

香淳皇后様とともに昭和が終わった感にも似て、石清水八幡宮田中文清先生、鈴木日出年先生、両名誉宮司様のご逝去は、やはりひとつの時代の終結を告げていると思います。

鈴木先生が幽冥境を異にされましたのは平成十二年十一月十四日、ご享年九十一歳でありました。ここに謹んで哀悼の意を捧げたいと思います。先生、本当にありがとうございました。

京のなぜ？

京のお店は、「一見さんおことわり」？

京の花街を語る上で、必ず出て来る言葉で、いけずとか、偉そうにしているという風に云われていますが、なぜ京のお店は「一見さんおことわり」なのでしょうか？大文字の女将 今井さんにお尋ねしました。

先ず、一言で云うなら、永年に亙って来ていただいているお得意様を大切にする。と云う事です。

お茶屋とは、ただお客様が、お座敷でお酒を飲んで遊んでお帰りになるだけでなく、そのお客様のお接待される事のすべてを演出し、お土産物の相談や、もし他府県のお方でしたら観光されます段取りをしたり、時にはホテル・観劇・乗り物の予約をお世話させていただきます。

また、お接待以外でお越しいただく時は、お仕事や対人関係のお疲れを取り除きに、お客様が心を癒していただく処にもなります。

それと、お勘定がほとんど付け・となり、他のお店のお立替も、という事もありますので、信用対信用のお付き合いをさせていただくわけです。

この他、お客様のご家族や、会社ぐるみでお付き合いさせていただく事が多いのです。

だから、目先の損得だけでお商売をして、雰囲気が変わり、永年のお客様の癒しの場所がなくなるのを防ぐのです。

新しい年のはじめにもご挨拶致します「相変わりませず」という言葉には、信用の大切さと「おなじみ」という心癒される響きがあるのです。

次回予告

北野天満宮『初天神』参拝

『新春参拝と講演会』

日時
平成十三年一月二十五日（木）
午前十一時～午後二時頃
（受付　午前十時三十分）

場所
北野天満宮
（上京区馬喰町）

会費
お一人様　壱千五百円

内容
◎参拝・本殿拝観　（六〇分）
◎昼　食
◎講話１拝聴　（三〇分）
◎講話２拝聴　（六〇分）

講演内容・講師
（講話１）
「北野天満宮の信仰について」
北野天満宮　梶　季嗣宮司
（講話２）
「屋根職人　檜皮葺きを語る」
―国宝北野天満宮社殿修復を終えて―
有限会社　宮川屋根工業
代表取締役　宮川　友一氏

※託児室をご用意しております。お子様とご一緒でも、ぜひご参加ください。

ご案内

平成十三年神宮参拝旅行

「お伊勢さん初まいり」参加者募集

京都府神社庁では毎年恒例で「お伊勢さん初まいり」と題して参拝旅行団を結成し、伊勢の神宮へお参りに行っております。

ところで皆さんご存知でしょうか「お伊勢さん」「大神宮さん」と親しく呼ばれ、辞書などでは「伊勢神宮」と紹介されていますが、単に「神宮」というのが正式な名称という事を。

「神宮」とは、伊勢の宇治の五十鈴（いすず）川上にご鎮座の皇大神宮（こうたいじんぐう、内宮＝ないくう）と、伊勢の山田の原にご鎮座の豊受大神宮（とようけだいじんぐう、外宮＝げくう）の総称で、古くは伊勢太神宮（いせのおおみかみのみや）ともいいました。

この両大神宮の正宮（しょうぐう）には、別宮（べつぐう）、摂社（せっしゃ）、末社（まっしゃ）、所管社（しょかんしゃ）が所属しており、全てで百二十五の宮社を数え、これらの宮社をふくめた場合も「神宮」といいます。

別宮とは、ご正宮の「わけみや」の意味で、所属の宮社のなかでも重んじられ皇大神宮に十所、豊受大神宮に四所の別宮があります。その他、伊勢、松阪、鳥羽の三市、度会（わたらい）、多気（たき）、志摩（しま）の三郡にわたってご鎮座になっています。

扨、この参拝では、一般ではお参りできない御垣内（みかきうち）参拝を致します。また、豊受大神宮（外宮）の参拝では平成十二年十二月十四日に新しく改築された、神楽殿にてお神楽の奉納がございますので是非ともご参加下さいます様ご案内申し上げます。

― 旅行日程 ―

《日時》
平成十三年二月二十七日（火）
～二十八日（水）一泊二日

《参加費》
一名、二六、〇〇〇円也
（内神楽料・饗膳料三、五〇〇円を含む）

《日程》

『第一日目』

JR京都駅八条口バスターミナル集合
（午前八時三十分出発予定）
←信楽・陶芸村見学
←関ドライブイン（昼食）
←豊受大神宮（外宮・御垣内参拝・神楽奉納）
←鳥羽扇芳閣（宿泊）
（午後五時頃到着予定・夕食懇親会）

『第二日目』

鳥羽扇芳閣
（午前八時三十分出発予定）
←海産物ショッピング
←皇大神宮（内宮・御垣内参拝）
←伊雑宮【別宮】（自由参拝）
←志摩磯部（昼食）
←海の博物館見学
←丸二ビックシードーム
←JR京都駅着
（午後七時三十分到着予定）

お申し込み・お問い合わせは
京都府神社庁 迄
TEL〇七五（八六三）六六七七

京都府神道青年会とは

当会は昭和二十六年に結成され、平成十三年六月には創立五十周年を迎えます。

会員は京都府に在住又は勤務する青年神道人で組織され、各自七つある委員会のいずれかに所属し、その委員会活動は信仰を以て、常に時代の先覚者として、真剣に考え研究し、実践を通じて社会に貢献すべく、会員相互の連帯を計り、神道の研究・教化並びに社会奉仕活動の推進を主目的としております。

具体的な活動例をあげますと、

「ヤチマタ協力隊」では、京都府神社庁が取り組む交通安全運動の一環として、交通災害遺児の支援に役立つよう、募金活動を行なっております。

「社会福祉施設への訪問」では、老人福祉施設を訪問し、餅つきや雅楽の演奏会、清掃奉仕などを行い、一昨年よりは児童福祉施設の子供達を招き、七五三詣の祈祷を始め、ゲームやアトラクションで楽しんでもらう七五三の集いも行なっております。

「チャリティーバザー」では、交通遺児支援のため、府内各社から品物を拠出いただき、収益金は京都府交通対策室等に寄付しております。

「皇室関連施設への清掃奉仕」では、当会が担当となり近畿地区二府四県の神道青年会員が相集い、御所や陵墓などの清掃奉仕を毎年行なっております。

「他団体との交流」では、他宗教・医療・教育関係等の他団体と意見交換を行い、親睦を深め、これからの神道を考えております。

「月例研修会」では、神道に限らずいろいろな分野の講師先生をお招きし研修をしております。

その他、会報の発行やカレンダー・七五三ポスターの作成、会員家族交えての親睦会、OB会員との懇親会、更には野球部・神道問題研究会といったクラブ活動など、年間を通じ様々な事に取り組んでおります。

会員数一六一名（会長＝飯田延生　松尾大社権禰宜）

京都の躾を語る女性の会

入会随時受付

お葉書・Eメール・お電話などにより、事務局までお申し込み下さい。

本会または本誌に対する、ご意見ご感想をお待ち申し上げます。

現況報告

会員数　二〇七名
ホームページアクセス数　五，五六六件
平成十二年十二月二十日現在